

アメリカ文学・研究書特集

日本アメリカ文学学会全国大会開催を機に

特集 アメリカ文学／研究書あんない

毎年秋に開催される日本アメリカ文学学会全国大会。65回目となる今回は福岡大学（福岡県福岡市城南区七隈8丁目19-1）で10月10日（土）・11日（日）の2日間開催される。

小紙では、毎年恒例となっているアメリカ文学に関する研究書を、各出版社の協賛のもと特集する。また、開催校・福岡大学にて大会運営を担う同大学人文学部教授の大島由起子氏に、大会に向けた意気込みや開催地である福岡（博多）の魅力が伝わるエッセイを寄せてもらった。

大会への参加を予定されている方はもちろん、それ以外の方にも、多様な出版情報や記事を通して、本邦におけるアメリカ文学研究の最前線にぜひ触れていただきたい。

（編集部）



第65回全国大会プログラム
詳細は、日本アメリカ文学学会
公式HPよりご覧ください。

日本アメリカ文学学会第65回全国大会に寄せて

今年の日本アメリカ文学学会全国大会は、九州支部が担当し、福岡大学にて開催されます。会場となる福岡大学は、二万人を超える学生を擁する九州最大規模の私立大学であり、そのスケール感ほアメリカの州立大学を彷彿とさせます。当学会は一九五六年三月にアメリカ文学会から独立して発足しましたが、九州アメリカ文学会の立ち上げはその四か月前に遡ります。先達たちの先見の明と情熱には、今なお誇りを禁じ得ません。

会場となる福岡（博多）は、古代より「遠の朝廷」大宰府や鴻臚館を擁し、アジアとの交流の窓口として発展してきました。また近世には、初代福岡藩主・黒田長政が都市の礎を築いた歴史を持ちます。博多の人々はさっくばらんで人情に厚く、異文化に対して開かれていきます。祭りも盛んで、ゴールデン・ウィーク中の博多どんたく港まつりも有名ですが、なかでも博

——ようこそ博多へ—— 街の熱気に負けない熱い議論を期待して

大島由起子



に味わっていただければ幸いです。今回は、二〇二一年に小説『白鯨』Moby-Dickを上梓された作家の夢枕獭氏をお迎えし、『白鯨』ができるまで』と題した特別講演をいただきます。異孝之先生の尽力により、当大会での講演として結実いたしました。遭難した若き

夢枕獭は、二〇二一年に小説『白鯨』Moby-Dickを上梓された作家の夢枕獭氏をお迎えし、『白鯨』ができるまで』と題した特別講演をいただきます。異孝之先生の尽力により、当大会での講演として結実いたしました。遭難した若き



本特集紙面は、読書人ウェブ上で無料公開しています。上記QRコードからアクセスしてください。

★特別講演『『白鯨』ができるまで』 講師：夢枕 獭（作家）

○日時：10月11日（日）[第2日]
10時45分～11時45分

○場所：8号館2階823教室

○司会：大島由起子（福岡大学教授）

※価格は税込表記

メルヴィルと両義性の詩学 後期小説の測鉛 A 5判・364頁・4400円 西谷拓哉著 『白鯨』以降の後期小説『ビーエール』『信用詐欺師』『ビリー・バッド』等を精読し、両義性・曖昧性に満ちたテキストの深み・測鉛を下ろす。 北島山編集室	カズオ・イシグロの世界を 探検する —はじまりは長崎から— 四六判・336頁予定・予価3190円 松田雅子著 長崎からの記憶と文学の旅。作家カズオ・イシグロ誕生の軌跡をたどり、新たに発見された戦争と被爆をめぐる家族の歴史と作品テーマの関連を読み解く。 開文社出版	＜ユートピア／ディストピア＞で読む英語文学 Utopia and Dystopia in English Literature 四六判・272頁・3300円 現代英語文学研究会編 19～20世紀末に及ぶ、英語文学に潜む「ユートピア」と「ディストピア」の正体を暴く。英語文学の新たな視点と著者8名で示す、渾身の論集！ 開文社出版	英語病に用心！ —体験談から覗き見る 語学の達人たちの舞台裏 四六判・476頁・2970円 東郷公徳著 語学の達人たちの体験談をインタビュー形式で覗き見るオーラル・ヒストリー。語学との正しい向き合い方とその新たな思考や世界観が盛り込まれた1冊。 開文社出版	英米文学における「危機」を読み解く ダモクレスの剣の変容 A 5判・408頁・4620円 植月恵一郎・山本聖史編著 17編の論考をテーマ別に感染症、戦争、環境、食糧・エネルギー、ジェンダー・人種、思想・哲学、宗教・分断の八つの「危機」に分類して収録。 音羽書房鶴見書店	政治と社会から読む 英語圏文学 A 5判・156頁・2750円 森有礼・新井英夫・細川美苗著 フォークナー、ギャスケル、ドラブル、パイロン等19世紀、20世紀の英米文学を「政治と社会」というキーワードで読み解く6論考。 音羽書房鶴見書店
オムニセクシュアル ジェフ・ライマン傑作選 四六判・400頁・3300円 ジェフ・ライマン著／鯨井久志編訳／中村融・古沢嘉通訳 ポストコロニアルSFの最高傑作『征たれざる国』『ボル・ボトの美しい娘』ほか多彩な作品を厳選した傑作選。 国書刊行会	完訳エミリー・ディキンソン 詩集 第2版 (フランクリン版) A 5判・560頁・5500円 新倉俊一監訳／東雄一郎・小泉由美子・江田孝臣・朝比奈緑訳 原作の新たな定本フランクリン版に準拠した、ディキンソン完訳詩集の改訂第2版。 金星堂	だから映画はおもしろい アメリカ映画とエッセイ 新書判・370頁・1980円 君塚淳一・馬場聡・河内裕二編著 39本のアメリカ映画を中心に、関連する作品も多数紹介。映画を通して「アメリカ」を理解するためのガイドブック。 金星堂	領域のかたに 横断する言語表象と再生をめくって A 5判・261頁・3080円 片平会編 学術研究が多様化の一途をたどる現代において「領域のかたに」の知見の追求を目的とした、言語学、言語教育、文学（文化）批評の専門家たちによる論集。 金星堂	パンを与える人々 アンシア・イジアスカ 四六判・352頁・3080円 東雄一郎著 表題作は1925年に出版された、イージアスカの代表的な長編小説、自伝的小説である。ほかに晩年の短編小説を中心に5編収録した。 金星堂	絵画で読み解く 英米文学 A 5判・474頁・3630円 富士川義之編 本書は、「姉妹芸術」としての英米文学と絵画との交差、相互影響、「エクブラシス」の実例など交差論じた、監修者を含む25名による刺激的論集である。 金星堂
リベラルなアメリカの 「失われた魂」たち 福音派とスコット・アイ リッシュの世界 A 5判・316頁・3080円 山本貴裕著 リベラルなアメリカの「シャドウ」と化している「福音派」と「スコット・アイリッシュ」の歴史を掘り起こし、トランプ支持者の実像に迫る。 彩流社	アメリカ参軍への 長い道のり マイルズ・ホートン自伝 四六判・364頁・3960円 マイルズ・ホートン＋ジュディス＆ハーバート・コール著／水谷育子訳 米国の労働運動や公民権運動に大きな役割を果たした、人種隔離撤廃の知られざる巨人。 彩流社	フェノロサ夫人の東京日記 岡倉天心、ラファディオ・ ハーン、津田梅子 四六判・512頁・4400円 村形明子編訳 文学者メアリー・フェノロサが克明に綴った日記。岡倉天心をはじめ、L・ハーン、津田梅子等、多数の文化人、政界人が登場する稀有な記録。 彩流社	歓楽の家 The House of Mirth イディス・ウォートン著／山口 ヨシ子訳 四六判・520頁・3850円 イディス・ウォートン著／山口ヨシ子訳 上流階級の虚飾を内側から描いたウォートンの初期代表作を、当時の文化の背景がわかる豊富な訳注とともに新訳で送る。 彩流社	働く女の物語 Louisa May Alcott 働く女の物語 四六判・616頁・4400円 ルイザ・メイ・オルコット著／泉邦子・長岡亜生訳 女性の自立、意義ある「仕事」とは何かを描く。オルコット自身のさまざまな仕事経験を基にした小説、本邦初訳。 彩流社	エコノミーから 19世紀アメリカ文学を読む 空間の拡大と社会の変容 A 5判・292頁・3520円 伊藤淑子・倉橋洋子・小田教子・真田満編著 空間の拡張、風景の変容、時間概念の多様化等をキーワードに、文学と「エコノミー」の関連性に切り込む。 彩流社